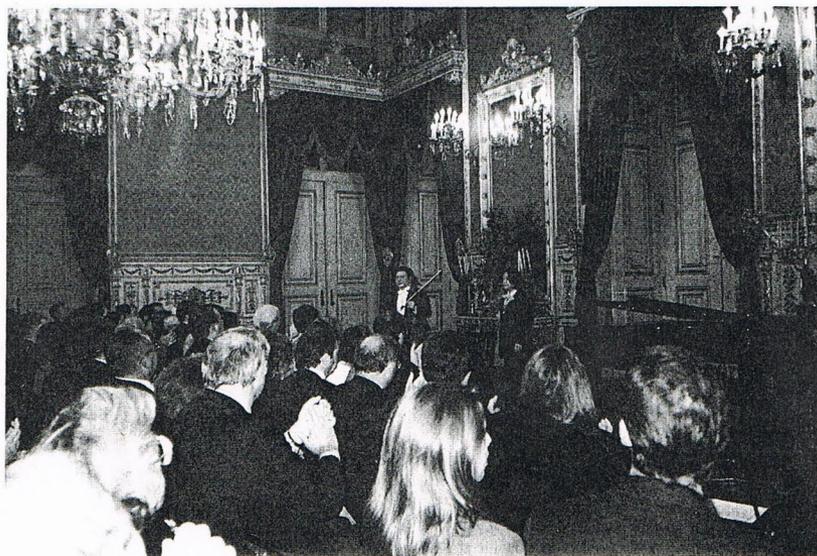




平井丈一朗、アルヴェス嬢と

チェリストの平井丈一朗が、去る11月10日から21日にかけて、外務省及び国際交流基金の派遣でポルトガル楽旅を行な

平井丈一朗のポルトガル・ツアー



会場のアジュータ宮殿は国の迎賓館でもあり、コンサート使用許可が出るのは極めて異例

った。その中で特に印象深かったのがアジュータ宮殿(同国の重要文化財)でのリサイタルだった。

コンサートは11月15日(金)夜9時30分から、ポルトガル建築文化財・考古学院、国立アジュータ宮殿、日本大使館の共催により、主要企業20社の後援を得てアジュータ宮殿「王冠の間」で開かれ、ピアノ伴奏には現在英国王立音楽院大学院ピアノ科に在籍中の次男・平井元喜がロンドンより駆けつけ父子協演となった。

ピアノの搬入に関しては、会場が重要文化財であるため、床の上を転がすことが禁止されており、広い宮殿をピアノを持ち上げたまま運ばねばならず、関係者

を悩ませたが、結局偉丈夫を集め、担いで運ぶというハプニングも。

当日のプログラムはヴィヴァルディ…協奏曲二長調、バッハ…無伴奏組曲3番、シューマン…幻想小曲集、自作の無伴奏チエロ幻想曲(北斎)、カザルス…鳥の歌。他で、曲目が進むにつれ聴衆の熱気が強まり、2曲のアンコール後も延々真夜中の12時過ぎまでカーテンコールが続いたほど、現在ポルトガル一番の人気物となっている96年度ミス・インターナショナル優勝者、フェルナンダ・アルヴェス嬢も、國安大使夫妻と共に最前列で熱心に演奏に耳を傾け、文字通り華麗な雰囲気のコンスァートとなった。